

# 輝きと潤い

学校通信  
平成27年5月11日  
第2号  
発行  
校長 林田靖也

林田靖也校長

5月に入り、新緑の黄緑色がすがすがしい季節になりました。毎朝、郵便局前の交差点で、いつも運動をやっているすが、「南中生は素晴らしい。」と思うことがありません。それは、はるか50m前から、私の姿を見つけた生徒たちが、大きな声で「おはようございます。」と挨拶をしてくれることです。また、車で送迎してこられた保護者

の方も車の窓を開けて「おはようございます。」と、いつも挨拶をされる方がおられます。生徒のこのような姿は、まさに手本となる親の生活感覚なのかもしれません。さて、5月16日（土）、体育大会を開催いたします。先日、生徒会を中心に、大会スローガンを考えてもらいました。本年度の大会スローガンは、『挑戦』



米良先生の全体指導の様子

「燃え上がれ心の灯火きらめく汗と輝く涙」です。本年度の学校経営で生徒たちに話したのが、「さやかな挨拶をしよう」「光る心と体の汗を流そう」「潤いのある環境を創ろう」でした。まさに、学校目標を大会テーマに取り入れてくれました。たいへん嬉しく思っています。体育大会に向けて、本番で、光る汗と感動の涙がみられるよう、これからの一生懸命の練習をお願いしたいと思います。

## 一年生集団集団宿泊教室

4月26日（日）、28日（火）にかけて、阿蘇市の国立阿蘇青少年交流の家で、友情を深めること、良き信頼関係を築くこと、基本的な生活習慣を身に付けることを目的に、一年生集団宿泊教室を行いました。阿蘇中岳の火山灰が時折降りま

が、天気に恵まれ、初日のオリエンテーリング、二日目の阿蘇水基巡り、さらに夜のキャンドルの集いと、みんな元気に活動ができました。一日目のオリエンテーリングに応援に行きました。みな元気な挨拶、速やかな行動ができており、安心しました。

二日目の夕方四時頃、再度行きました。水基巡りから帰って、みんな入浴中で、日焼けした顔を見て帰りました。みんなの充実した活動が表情で見て取れました。



## 団長の抱負

白団団長 穴井晃斗君

白団団長の穴井晃斗君です。僕たち白団は、体育大会に向けて一生懸命練習を頑張ってきました。体育大会では、一人一人が精一杯声を出し、全力で一つの競技に取り組み、優勝することを目指しています。また、紅白関係なく感動する、今までにない最高の体育大会にしたいと思っています。

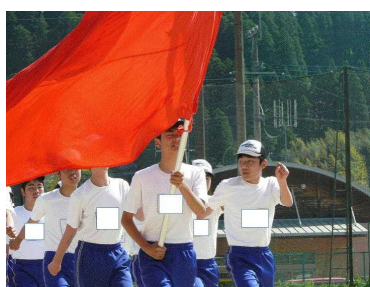


紅団団長 佐藤映斗君

紅団団長の佐藤映斗君です。自分自身は3年生として、みんなを引っ張らなければならぬ立場でもあり、最後の体育大会でも、この3年間の中学校生活で一番盛り上がる大会にしたいと思っています。そのためには、まず、団の団結力や意識の高さが必要になってくると思います。まず、団長である自分から、みんなに声をかけて、みんなを引っ張って、いけるように頑張りたいと思います。



## 練習風景



## 交通安全教室

君に伝わってほしいと願っています。



## 編集後記



4月23日（木）に、小国警察署赤馬場駐在所の橋本巡査長様、交通安全協会の井上様を講師に迎えて、交通安全教室を行いました。昨年までは、講話とペーパーテストで終わっていましたが、本年度は、さらに、実技訓練を行いました。ゴールデンウイークを目前に、交通量の多くなる時期、実際には、交差点での左右確認と自転車を押して渡ることの大切さ、「自分の命は自分で守る」と「くるまは、止まるだろう」「車は、来ないだろう」という「油断」をしないように話をしました。前日は、観光バスが「きよらカーサー」手前に突っ込むという重大事故が起こったばかりで、時間帯が、生徒の通学時間帯であったらと思うと、ゾーゾーとします。かけがえのない命を守る取組として、生徒諸君の作業です。発芽した苗の多さに、苦戦しています。しかし、花壇やプランターで見事な花を咲かせることをイメージすると、少しぐらいのキツさは我慢できる毎日です。子育てと似たところがあ

先日、種まき用の土と花の種子（ひまわり、マリナーゴルド、ホウセンカ、サルビア、コスモス）を購入して、何人かの生徒にも手伝ってもらい種蒔きをしました。休みの日も土が乾かないように何人かの職員で水やりをした結果、蒔いた種子の芽がたくさん出てきました。数えたら、全部で一〇〇株ほどでした。次は、ビニルのカップに移し替える作業です。いわゆる鉢上げの作業です。発芽した苗の多さに、苦戦しています。しかし、花壇やプランターで見事な花を咲かせることをイメージすると、少しぐらいのキツさは我慢できる毎日です。子育てと似たところがあ